

## 4月 月案 反省

・在園児6名、新入園児7名（0歳児1名 1歳児5名 2歳児7名）のスタートとなった。事前の保護者とも慣らし保育の時間を話し合いながら新入園児が無理なく新しい生活に慣れていく事が出来る様にしっかりと環境を整えた事で、最初の一週間は泣く姿も見られたがすぐに慣れ、2週目から午睡など部分的に泣く姿は見られたが、全体的落ち着いていた。新入園児が落ち着いていた事で、在園児も大きな気持ちの不安定さには繋がらず良い相乗効果となった。

・主活動では、近くの農道や保育室周辺など無理のない距離の中で散歩に出て戸外活動も楽しむ事が出来た。保育士がその日の子ども様子や相性や月齢などを見ながらお友だち同士で手を繋ぐ事で、2列で歩く事も出来、春の自然を友だちや保育士と共有しながら楽しむ姿も見られた。今後も日々の子どもの様子など保育士間で共有しながら、個々に寄り添うことを大切にいく。

・制作はこいのぼり・アヒルを作る。4月という事もあり、無理なく進めて行けるように手形足形のみとした。GW前に保育室に飾ったり、こいのぼりはおうちに持って帰ってもらい家庭でも楽しんでもらえるようにしたのは良かった。制作のスタートが遅くなってしまい、バタバタとなってしまった部分もあったため、余裕をもった計画を立てもっと子どもたちの期待につながる様な挿入のし方が出来る様にしていきたい。

### ・個別で気になった子

○○・・・環境の変化により大きく崩れると思っていたが、全体が落ち着いていた事もあり自分のペースで過ごせる事が多かった。一定の保育士が多く係るようにしたことで継続した関わりが出来ていた。今後は少しずつ他の保育士も関わりながら安心できる場所・人を広げていける様にする。

○○・・・新入園児が増え、一番上のクラスになった事で期待から意欲的になるのではなく甘えが増え、赤ちゃん返りのようになっている。保育士を求めるときには、しっかりと受け止めている。しかし本当は母に求めたい部分が強いが上手くかみ合わない事が多く満たされていない。家庭と連携を取りながら気持ちの安定を図っていく。

### ・健康面

4月後半から。鼻水・咳などする子が多くなり熱による早退も増えた。溶連菌感染による休みも出るなど新しい環境から後半は疲れが見られた。活動内容を室内にし休息が十分に取れるようなカリキュラムにするなど配慮をしてきたが、引き続き季節の変わり目のため、体調面は家庭と連携し丁寧に対応をしていきたい。

